

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

枚方市立田口山小学校

文部科学省が今年5月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

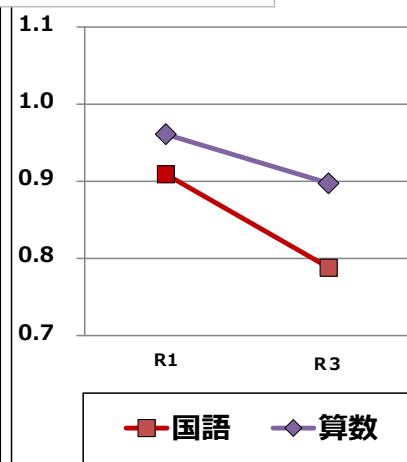
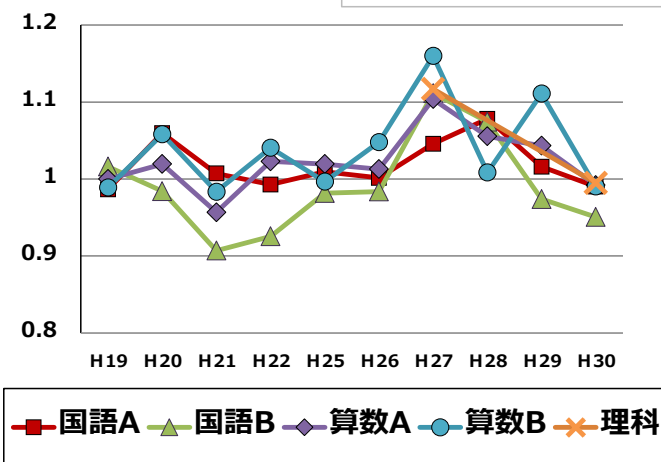
※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。
(※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。)

平均正答率経年比較 (対全国比)

(全国の平均正答率を1とした経年比較)



<学力調査結果の概要>

- 国語について
 - 文章の中での言葉の使い方や、意味の理解については定着しています。
 - ・記述式の問題は、正答率が低く無回答の児童もいます。
- 算数について
 - 棒グラフから数量を読み取ったり、項目間の関係を読み取ったりする問題は、全国値を上回っています。
 - ・図形領域を苦手とする児童が多くいます。

※本調査は、平成19年度から実施されています。

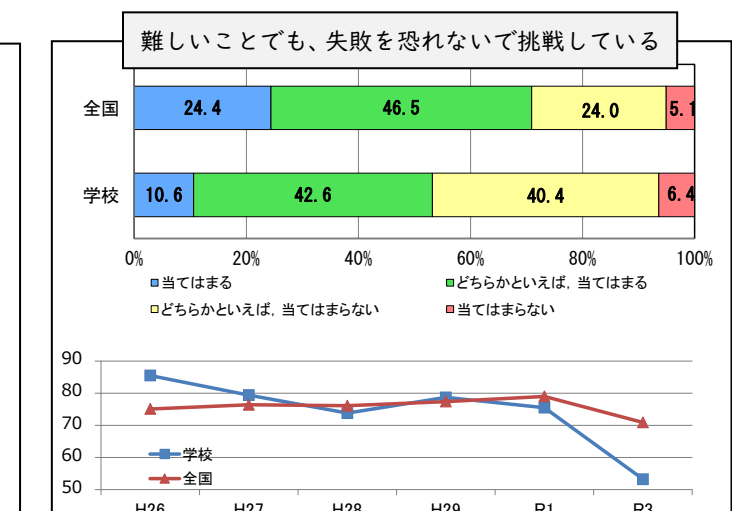
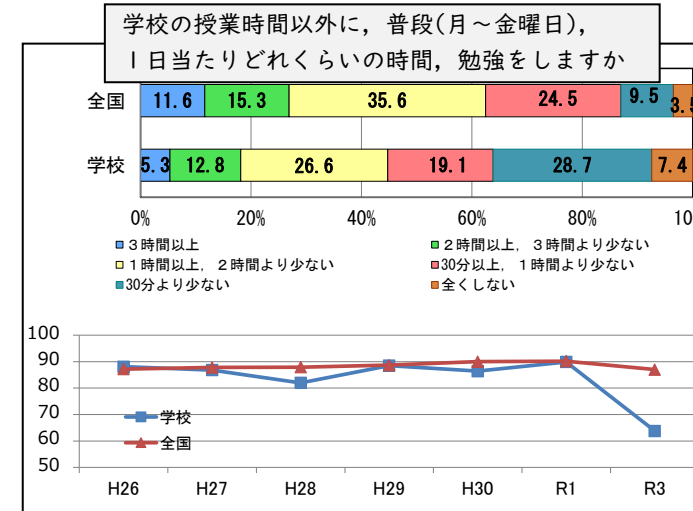
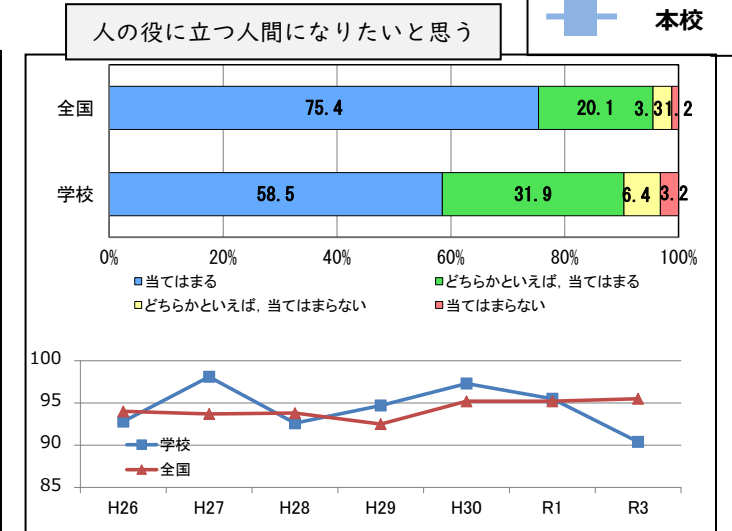
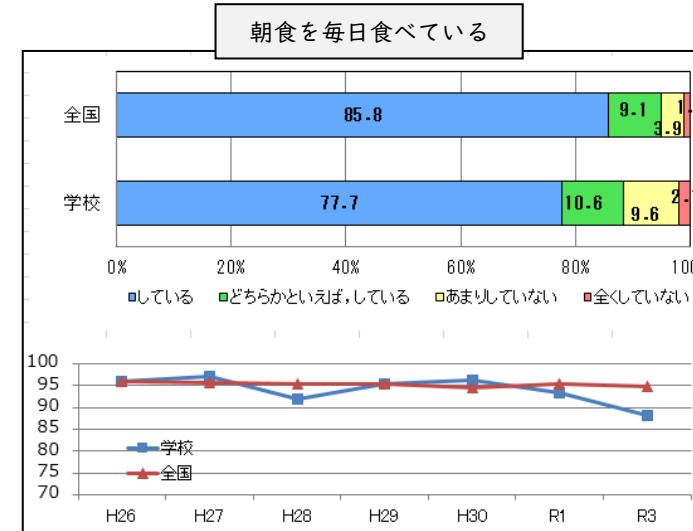
※平成23年度・令和2年度は中止、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国
■ 本校



<質問紙調査結果の概要>

- 授業改善においては、概ね全国をやや上回っています。
- 家庭学習においては、計画を立て学習する習慣や普段の一日に家庭で行う学習時間については下降傾向にあります。
- 規範意識や自己有用感においては下降傾向にあります。
- 生活習慣においては朝食をとる、決まった時刻の起床・就寝が低い値にあります。

まとめ

学習面では、文から情報を読みとったり、グラフや表を読み取ったりすることができている児童が多い反面、書くことに課題がある児童や図形領域が苦手な児童が多くいることがわかりました。また、生活習慣において朝食をとることや決まった時刻に寝るといったところに課題があることがわかります。今後は、基本的な生活習慣の確立のため、各家庭と連携を図るとともに、自学自習週間での振り返りカードにより意識できるように取り組み、また学習面の定着のために「書く」活動を大切に取り組んでいきます。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う

- 1 審判は九時より始まります。
 - 2 雨天に「引」試合は延期になりました。
 - 3 会場へは正門よりお入りください。
 - 4 今年の夏は去年の夏より暑いです。
- 二 相川さんが読んだ「資料」の最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- そのための、「一つ」取り外さなければならぬ「ホック」や「ボタン」より「留め具」の外しやすさを「面ファスナー」の方が「留め具」として選んでいたのです。

(考察)

この問題は、思考に関わる語句の使われ方を適切に捉え、筆者が伝えたいことを正確に捉えるものとなっています。特に今回は、筆者が面ファスナーの広がりについて、他の留め具と比較して説明しており、その「比較」の意味で使われている「～より」をしっかりと読み取り、答えることができていました。

【課題】

目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける

三 相川さんは、「資料」の「面ファスナーのくっつく仕組み」の図と「面ファスナーのくっつく仕組み」の文章とを結び付けて説明されていることを捉え、断片的な情報が互いに内容を補完し合っている関係にあることを捉えて読むことが大切です。その上で、「かぎ状」という言葉を手掛かりにするなどして「フックがループに引っかかることによつてくっつく」という情報を見付けることが求められます。また、3つの条件に合わせて文章を書くことも求められており、しっかりと読み取り、書き表すところに課題が見られました。

(条件)

- ヒトになったこと、面ファスナーのくっつく仕組みが分かるように書くこと。
- 「資料」の中の文章と「面ファスナーのくっつく仕組み」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十文字以上、八十文字以内にとめて書くこと。

相川さん

(考察)

この問題は、【資料】の文章の第二段落と、「面ファスナーの仕組み」の図とが結び付けて説明されていることを捉え、断片的な情報が互いに内容を補完し合っている関係にあることを捉えて読むことが大切です。その上で、「かぎ状」という言葉を手掛かりにするなどして「フックがループに引っかかることによつてくっつく」という情報を見付けることが求められます。また、3つの条件に合わせて文章を書くことも求められており、しっかりと読み取り、書き表すところに課題が見られました。

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

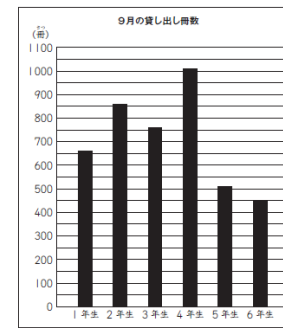
統計的な問題解決の方法を用いた考察(図書アンケート)

3

ひよりさんたちは、10月の図書委員会で、図書室の本の貸し出しの様子について話し合っています。

最近、5年生と6年生は、ほかの学年より本を借りていないではないでしょうか。

そこで、9月の貸し出し冊数を調べ、下のグラフに表しました。



(1) 左のグラフの、6年生の貸し出し冊数は何冊ですか。下のア から エ までの中から、最もふさわしいものを1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 401冊
- イ 405冊
- ウ 410冊
- エ 450冊

(2) 9月の貸し出し冊数について、左のグラフからどのようなことがわかりますか。下のア から エ までの中から、最もふさわしいものを1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 貸し出し冊数がいらいば多い学年は、2年生である。
- イ 2年生の貸し出し冊数は、3年生の貸し出し冊数の約2倍である。
- ウ 5年生の貸し出し冊数は、4年生の貸し出し冊数の半分くらいである。
- エ 1年生と3年生の貸し出し冊数の差は、約200冊である。

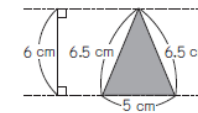
(考察)

3は身の回りの事象について、統計的に問題解決するために、集めるべきデータを判断したり、データを分類整理したり、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ったりすることができるかどうかをみる問題になっています。(1)の最小目盛に気をつけて数量をしっかりと読み取ることができていましたし、(2)の項目間の関係や集団のもつ全体的な特徴などを読み取ることができています。

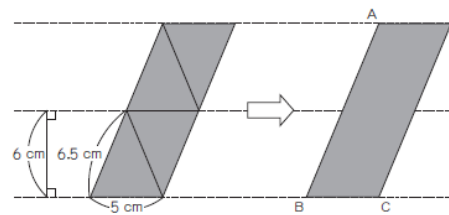
【課題】

図形の構成の仕方に着目した図形の計量についての考察(三角形や四角形の面積)

(3) 次のような二等辺三角形があります。



上の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形ABCDをつくりました。



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形ABCDの面積を求めます。辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのかわかるようにしましょう。また、平行四辺形ABCDの面積が何cm²になるのかも書きましょう。

(考察)

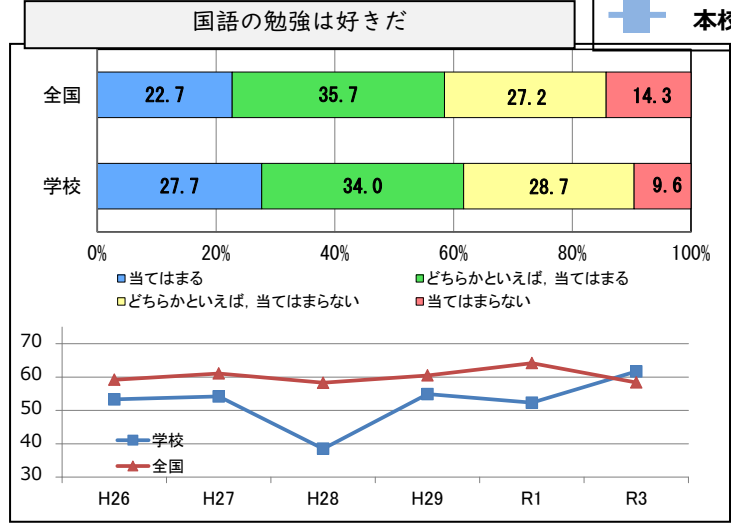
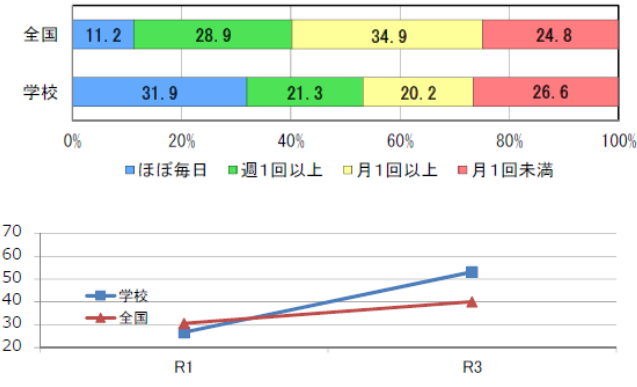
この問題は、複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方を答えや式を用いて記述できるかどうかをみるものになっています。ここでは、平行四辺形の高さを求める式や言葉が抜けていたり、三角形の面積の求め方について課題があったりするところがみられました。

質問紙に関する調査

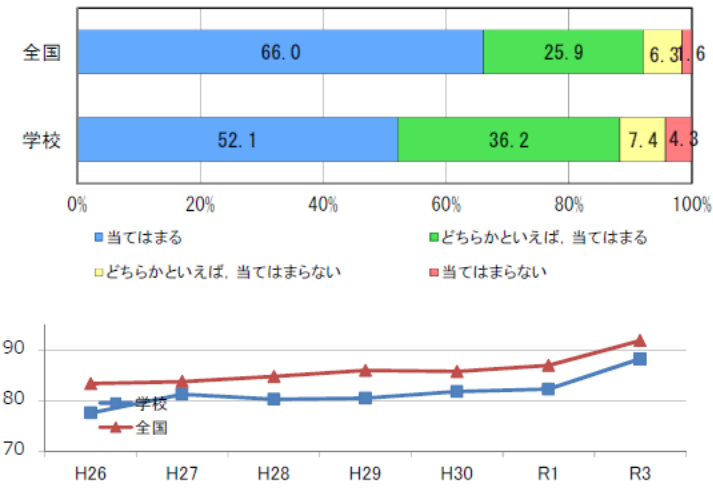
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果のあった項目】

5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。



算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか

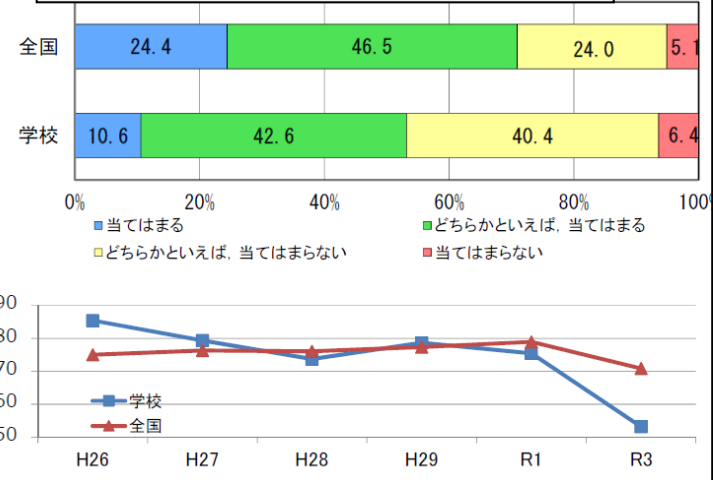


（考察）

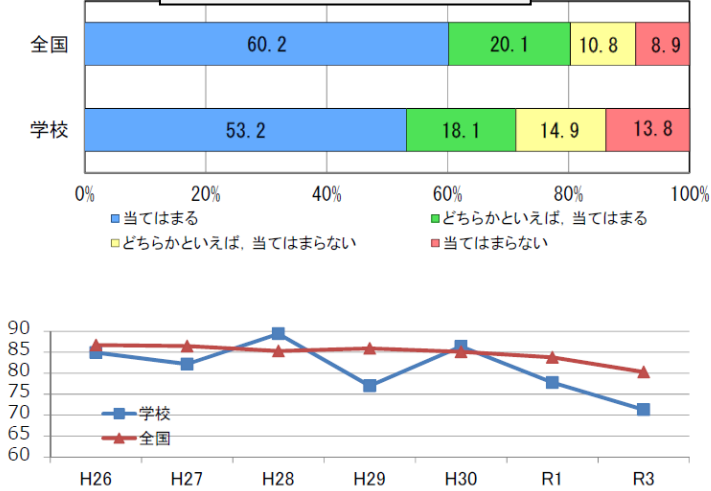
本校では校内研修として国語科の研究を行っており、その中で「国語の勉強が好き」という項目において肯定的な回答が多いことから、授業改善は学校として進んでいることがわかります。また、「算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いています」という項目で、前回よりも肯定的な回答が増えていることから、児童自身にしっかりと考え、ノートに書くといった力が着実に身に付いているということがわかります。さらに、「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」や「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」等のICT機器に関する項目では全国平均を上回り、学校として機器の運用や授業での活用が進められていることがわかります。

【課題が残った項目】

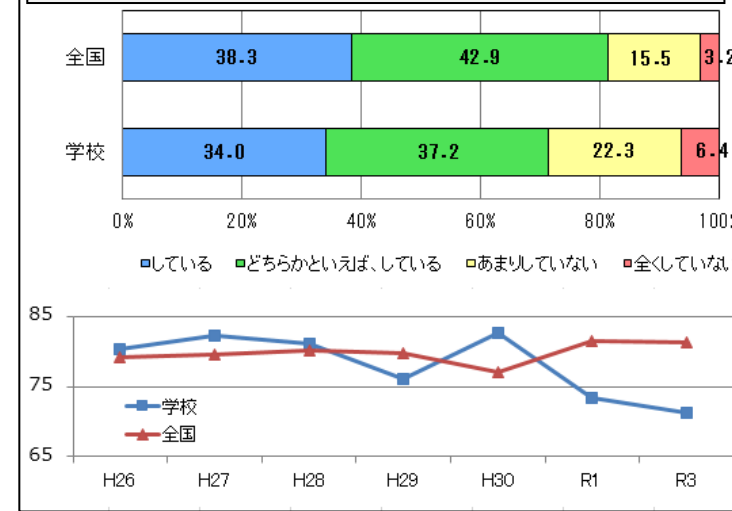
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している



将来の夢や目標を持っている



毎日、同じくらいの時刻に寝ている



（考察）

Society5.0時代の到来やコロナウイルス感染症対策の渦中により、将来の先行きが見えず、不安を抱える児童も少なくないため、近年全国的に「将来の夢や目標を持っている」の肯定率が下がってきています。また、本校の児童の課題として、失敗をしたくない、間違えたくないと考える児童が多くおり、その結果「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」の項目の肯定率が低くなっています。さらに「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」といった生活習慣について肯定率が低く、きちんとした生活リズムを確立していくことが今後の課題であると考えられます。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

- ・各教科において、言語活動を充実させ、特に、話し合い活動により自分の考えを深め広げたことについて、文章に表す力をつけられるよう、「書く」活動に重点をおく。
- ・校内研修を通して、書く力を中心とした自己表現力の向上をめざし、自らの考えをもち、伝え合い高め合う児童の育成を進める。
- ・全学年で読書ノートを活用して読書習慣の定着を行う。
- ・1～4年生についてはお話キューピットや読み聞かせを活用して、読書習慣の定着に取り組む。

(2) 家庭学習について

- ・「自学自習週間」での振り返りカードによる生活習慣や家庭学習の定着に取り組む。
- ・iPadを活用した学習（ロイロノートやタブレットドリルなど）を通して、家庭学習の改善につなげる。
- ・自主学ノートの好事例を共有して、意欲を高めるようにする。

(3) 規範意識や自己有用感について

- ・iPadにおいてスクールライフノート（心の天気）を活用し、児童一人一人の心の健康状態の把握を進める。
- ・毎月の学校での生活目標の設定を行い、より良い学校での過ごし方について考えられるようにする。
- ・係活動や委員会活動などで、子ども主体の場面を多く設定する。